

第53回大阪国際フェスティバル2015

大阪4大オーケストラの響演

大阪のオーケストラ4団体とそれぞれのシェフが一堂に集結する。各マエストロが熟考して選んだ「今、一番届けたい音楽」を一夜限りのコンサートで一気に聴く贅沢の極み!

[指揮]
藤岡幸夫



関西フィルハーモニー管弦楽団

黛敏郎：
バレエ音楽「BUGAKU(舞楽)」

© SHIN YAMAGISHI

日本センチュリー交響楽団

© s.yamamoto

サン＝サーンス：
交響曲第3番 ハ短調 作品78「オルガン付き」

[指揮]
外山雄三



大阪交響楽団

ストラヴィンスキー：
バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

© 飯島隆

大阪フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェン：
交響曲第7番 イ長調 作品92

© OrchestraEnsembleKanazawa

[指揮]
飯森範親



[指揮]
井上道義



2015 **4.22(水)** 開演18:30(開場17:30) **フェスティバルホール**

〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18
京阪中之島線「渡辺橋」駅
地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅より直結

S席 8,000円 A席 7,000円 B席 6,000円 C席 5,000円 BOX席 11,000円 バルコニーBOX席(2席セット) 16,000円 [全席指定(消費税込み)]

バルコニーBOX席は
フェスティバルホール チケットセンター
(電話予約)のみの販売

チケット 一般発売日	フェスティバルホール クラブ会員 予約受付開始	2014 11/23(日) 10:00-
2014 11/30(日) 10:00-	フェスティバルホール オンライン会員 予約受付開始	2014 11/29(土) 10:00-
大阪フィル・チケットセンター会員予約受付開始		2014 11/25(火) 10:00-
大阪交響楽団会員予約受付開始		
関西フィルハーモニー管弦楽団会員予約受付開始		
センチュリー・チケットサービス会員予約受付開始		

- お申し込み
ご予約
- フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) ※窓口での取扱は12月1日(月)より(ただし、残券がある場合のみ)
 - フェスティバルホール オンラインチケット(要事前登録) <http://www.festivalhall.jp/> (PC・携帯共通)
 - 大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890 (平日10:00~18:00 土曜日10:00~13:00 日祝休み) <http://www.osaka-phil.com/>
 - 大阪交響楽団 072-226-5522 (平日10:00~17:00) ●関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6577-1381 (平日10:00~17:00 土曜日10:00~16:00 日祝休み)
 - センチュリー・チケットサービス 06-6868-0591 (平日10:00~18:00)
 - チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード 246-388] <http://t.pia.jp/>
 - ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応) 0570-084-005 [Lコード 53814] <http://l-tike.com/>
 - CNプレイガイド 0570-08-9999 <http://cncn.jp/> ●e*(イープラス) <http://eplus.jp/> ●アスクプレイガイド 06-6222-1145

お問合せ | フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00)

主催：朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー協会、
関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団
協賛：朝日放送、京阪電気鉄道、サントリーホールディングス、高砂熱学工業、竹中工務店、阪神電気鉄道
協力：フェスティバルホール

※やむを得ない事情により曲目、出演者が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。予めご了承ください。
※未就学児入場不可



藤岡 幸夫(首席指揮者)

『今回の4大オーケストラの響演は大阪らしい素敵なアイデアと感激しております。少子化や多趣味時代が続く中、これからクラシックの世界を支えるのは新しい発想が必要で、こうしてオーケストラ同士で良い意味で刺激しあえるのは素晴らしいことだと思います。関西フィルとはこの15年間毎年40公演以上共演してきました。また邦人作品を積極的に取り上げて来た、我々らしい一体感溢れるエキサイティングな演奏をお届け出来ればと思います。』

慶応義塾大学、英国王立ローザン音楽大学指揮科卒業。「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を特例で受賞。1994年「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー。以降数多くの海外オーケストラに客演。マンチェスター室内管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団を経て、現在、関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者を務め15年目となる。毎年40公演以上を指揮する関西フィルとの一体感溢れる演奏は、常に聴衆を魅了し、高い評価を得ている。2014年10月よりスタートしたBSジャパンの新番組「エンター・ザ・ミュージック」(毎週火曜日、夜11時)に参画。指揮者・司会者として、関西フィルと共にレギュラー出演中。2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

オフィシャル・ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>
Twitterアカウント @sacchiyo608

関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年発足。2003年NPO法人化。関西を代表する楽団の一つ。世界的ヴァイオリニストでもあるオーギュスタン・デュメイが11年より楽団史上初の音楽監督に就任。藤岡幸夫は07年より首席指揮者に就任。飯守泰次郎は11年桂冠名誉指揮者に就任。クラシック音楽界に新たな潮流をつくるべく、2014年10月よりスタートしたBSジャパンの新番組「エンター・ザ・ミュージック」に藤岡幸夫と共に出演中。



オフィシャル・ホームページ <http://www.kansaiphil.jp/>
オフィシャル・ブログ <http://blog.livedoor.jp/kansaiphil/>



外山 雄三(ミュージック・アドバイザー 2016年4月より)

『世界中のオーケストラの演奏曲目になくはないもののひとつがストラヴィンスキーの作品。「火の鳥」はディアギレフとの共同作業から生まれました。若いストラヴィンスキーに若いオーケストラが全力で挑みます。このように4つのオーケストラが「競演」するなどということは滅多にない事ですから、きつとお楽しみいただけると思います。それぞれの持ち味、特色がくっきりと表れるはずで、私どもも日常の精進の結果が、そのまま舞台上で表現できるように願っております。』

1931年東京生まれ。東京音楽学校(現在の東京芸術大学)で作曲を学び、在学中、第20回音楽コンクールに入賞。1952年卒業と同時にN響に打楽器練習員として入団。1954年には指揮研究員となり、1956年9月にN響を指揮してデビュー。以来各オーケストラに数多く客演を開始。1958~60年にかけてウィーンに留学。1960年N響の世界一周演奏旅行に同行、指揮者としてばかりでなく自作の「管弦楽のためのラプソディー」によって作曲家としてもその名をひろめた。これまでに大阪フィル、京都市響、名古屋フィル、神奈川フィル、仙台フィルの要職を歴任。作曲家としてはオペラ、交響曲、室内楽曲、歌曲、合唱曲まで多岐にわたる作品を残している。1963年、2000年尾高賞、1981年有馬賞、1983年サントリー音楽賞、1999年文部大臣表彰、2010年度日本放送協会放送文化賞を受賞。現在、NHK交響楽団正指揮者、愛知県立芸術大学客員教授。

オフィシャル・ホームページ <http://www.yuzo-toyama.com/>

大阪交響楽団

1980年創立。永久名誉楽団代表・敷島博子が「聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を!」をモットーに提唱。いつも聴衆を「熱く」感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」であると評されている。音楽監督・首席指揮者 見玉宏、常任指揮者 寺岡清高。知られざる名曲に光をあてるディスクヴァレー・クラシックシリーズなど、斬新で意欲的なプログラムは大きな注目を集めている。



オフィシャル・ホームページ <http://sym.jp/>



飯森 範親(首席指揮者)

『在阪の4つのオーケストラが一堂に会す今回のコンサート...これは画期的なプロジェクトだと思います。このコンサートで演奏するサン・サーンス作曲交響曲第3番「オルガン付き」は、日本センチュリー交響楽団がもっている美しい音色とパワーをいかに発揮できる最適な作品だと思っております。私どもの大きな変革過程の中で行われるこの企画が、今後の関西の音楽シーンにおいて更なる飛躍となることを確信しております。オーケストラとともに大阪の文化が更に活気を帯びていくことを願いつつ...』

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音するとともに、日本ツアーを成功に導いた。国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係の続け、現在は正指揮者。2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマラーの交響曲第1番でデビュー。2006年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、2007年より山形交響楽団音楽監督、2014年より日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任し、そのエネルギッシュな活動は高い評価を受けている。

オフィシャル・ホームページ <http://www.iimori-norichika.com/>

日本センチュリー交響楽団 ~あなたの夢、音にのせて~

日本センチュリー交響楽団(旧大阪センチュリー交響楽団)は1989年に活動を開始し初代常任指揮者ウリエル・セガル(現名誉指揮者)の指揮により第1回定期演奏会を行った。2011年4月に名称を日本センチュリー交響楽団に変更し、小泉和裕音楽監督、沼尻竜典首席客演指揮者のもと新たなスタートを切った。2014年4月から飯森範親が首席指揮者、アラン・ブリバエフが首席客演指揮者として就任し、楽団は創立25周年を迎えた。



オフィシャル・ホームページ <http://www.century-orchestra.jp/>



井上 道義(首席指揮者)

『今年、僕の周りには4という数字が付き纏う! 4月4日の大フィル首席指揮者就任コンサートのショスタコ4番に始まり、10月定期のチャイコフスキー4番。そして多くの4を乗り越えて僕は生きている。そして4人の指揮者とのコンサートで4人目40分の曲。死んだ気になって指揮します!』

1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者を歴任。2007年、「ショスタコヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」を東京・日比谷公会堂にて開催し、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2010年「京都市文化功労者」を受賞。2007年よりオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督、ならびに石川県立音楽堂アーティスティック・アドバイザーに就任。ラ・フォル・ジュルネ金沢を含む多くの実験的企画を敢行し続けている。2014年4月、大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者に就任。自宅にアヒルを飼っている。

オフィシャル・ホームページ <http://www.michiyoshi-inoue.com/>

大阪フィルハーモニー交響楽団

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で生まれ、1950年社団法人化、1960年に改組、現在の名称になった。創立から2001年までの55年間、朝比奈隆が常任指揮者・音楽総監督を務め、2003年大植英次が第2代音楽監督に就任、2012年4月より桂冠指揮者となる。2014年4月より井上道義を首席指揮者に迎え、「定期演奏会」はフェスティバルホールで、年10回、毎回2公演開催している。



オフィシャル・ホームページ <http://www.osaka-phil.com/>

「大阪4大オーケストラの響演」満喫講座

「大阪4大オーケストラの響演」をより深く楽しんでいただくための講座を開催します。講座と公演チケット(S席)のセット券を販売します。講座は申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。お早めにお申し込み下さい。

■日時:2015年4月22日(水) ■講座 11:45~12:30(予定) ■リハーサル見学(関西フィル) 13:00~13:40(予定)

■会場:フェスティバルホール ■講師:藤岡幸夫(関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者)

(お問い合わせ) 朝日カルチャーセンター中之島 TEL.06-6222-5222 (ホームページ) <http://www.asahiculture.jp/> 主催:朝日新聞社、朝日新聞文化財団、朝日カルチャーセンター